

「木の文化」を継承するための協定を締結しました

徳島県三好市祖谷地区の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋(国指定重要有形民俗文化財)、奥祖谷の二重かずら橋は定期的な架け替えが必要で、近年、架け替え資材であるシラクチカズラの確保に苦慮しています。

一方、徳島森林管理署では、平成20年度から三好市、祖谷かずら橋架け替え資材確保委員会と連携・協力し、これまで地域の子供たちとともに育てたシラクチカズラの苗木1,500本を国有林内に植え育ててきましたが、その多くが生育しない等の課題を抱えていました。



地域の子供たちと育てます



4年生の苗木です

地域の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋等を後世に残し伝え、「木の文化」を継承していくためにも架け替え資材であるシラクチカズラを将来にわたって確実に育て、必要な資材量を確保していくことが重要です。

このため、平成28年11月、4年生の苗木12本を新たな箇所(国有林)に植栽したところ、翌春(平成29年4月)に初めて、12本全部の活着を確認できました。なぜ、活着したのかその原因について、香川大学副学長の片岡先生(当時農学部長)と確認したところ、これまで植栽した箇所の条件(水はけ、陽光)が苗木の生育に適していないことが判るとともに、新たに苗木の育苗環境や植え付けた苗木がニホンジカの食害を受けることも判明しました。



平成29年4月に初めて12本全部が活着。



片岡香川大学副学長(当時農学部長)の指導(H29.9)

祖谷のかずら橋等の架け替え資材としてシラクチカズラを育成していくには、概ね20年程度の時間を要します。また、育成過程において多くの課題や問題点があります。

このため、これらの課題や問題点を解決し、将来にわたって架け替え資材であるシラクチカズラを確実かつ安定的に供給(確保)していくため、マタタビ属植物の増殖・育成の権威である香川大学農学部から技術的支援を得て、三好市、香川大学農学部、徳島森林管理署の3者が連携・協力していくことが必要なことから、3者による協定を2月23日締結しました。

また、今回締結した協定では、シラクチカズラの実を活用した商品化についても連携・協力して取り組むこととしており、「木の文化」の継承とともに、実の活用を通じた地域振興にも支援していきたいと考えています。



三好市、香川大学農学部、徳島署による協定

(H30.2.23)



架け替えされた祖谷のかずら橋(H30.2.23 撮影)



シラクチカズラの実

(担当：署長)